

船橋市リハビリセンター
平成30年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
(1)	組織編成	1
(2)	情報システムの構築	2
(3)	職員の資質向上	2
2	サービス機能	2
(1)	職員配置	2
(2)	提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
(1)	回復期病棟を持つ病院との連携	4
(2)	医師会との連携	4
(3)	地域の診療所や介護サービス事業者との連携	4
II	利用状況	6
1	外来患者	6
(1)	外来患者数	6
(2)	月別外来患者（延べ人数）内訳	6
(3)	年齢別・男女別外来患者内訳	8
(4)	疾患別外来患者内訳	9
(5)	地域別外来患者内訳	9
2	通所リハビリテーション利用者	11
(1)	通所リハビリテーション利用者数	11
(2)	月別通所リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	11
(3)	年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	12
(4)	疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	12
(5)	介護度別分類	13
(6)	地域別通所リハビリテーション利用者内訳	13
3	訪問リハビリテーション利用者	15
(1)	訪問リハビリテーション利用者数	15
(2)	月別訪問リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	15
(3)	年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
(4)	疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
(5)	介護度別分類	17
(6)	地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	18
4	訪問看護利用者	19
(1)	訪問看護利用者数	19

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	19
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	20
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	20
(5) 介護度別分類	21
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	22
5 地域リハビリテーション拠点事業	23
6 リハビリ事業	23
(1) パワーリハビリ教室	23
(2) パワーリハフォロー	24
(3) プールリハビリ	24
Ⅲ 収支状況	26
Ⅳ 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	28
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	28
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	30
(3) 目標3 通所リハビリ利用者について（介護福祉士の占める割合）	32
(4) 目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割 合100分の30以上	33
(5) 目標5 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	34
(6) 目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	36
(7) 目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、 勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	38
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	39
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	41
(10) 目標10 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	42
(11) 目標11 財務内容の改善に関する事項（診療所）	44
(12) 目標12 財務内容の改善に関する事項（訪問看護）	46
(13) 目標13 地域リハビリテーション拠点事業	47

（資 料）

資料1 組織図	資料7 訪問看護アンケート
資料2 センター内外の研修・学会	資料8 リハビリ事業アンケート
資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績	資料9 地域リハビリテーション拠点事業 アンケート
資料4 外来患者アンケート	
資料5 通所リハビリテーションアンケート	
資料6 訪問リハビリテーションアンケート	

I 管理の実施状況 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は、センター長を補佐する役割として、副センター長を配置した。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B 訪問看護

訪問看護は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属し、訪問看護ステーションの利用者の看護及びリハビリテーションを担当した。

C リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

D 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

E サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

①医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。センター内で起こる「ヒヤリハット」報告に対して検討し、事故を未然に防ぐべく対策を提案した。感染対策委員会は、センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。感染予防に対する意識を高めるため、手洗いキ

ットを使用し、自らの手洗い方法を見直す機会を設けた。ノロウィルス感染対策として、嘔吐があった場合の対応について、動画を交えた勉強会を実施した。

②個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えている。

③サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、御意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整えた。生花の配置、患者満足度調査等を行った。接遇向上を目指して、各スタッフの接遇に対する意識を共有するため、朝礼の際にスピーチする機会を設けた。また、センター運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を刊行物にて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行ない、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制についても研修を行った。

職員には全体会議や朝のミーティングを通じて、社会人や大人としての礼儀作法・身だしなみ、言葉遣い等の接遇に関する研修を行うなど意識付けを行った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	平成30年度
センター長兼院長兼医師	1

副センター長	1
チームマネジャー（看護師）	1
チームマネジャー（作業療法士）	1
看護師	5（1）
ケアワーカー	3（1）
理学療法士	13（1）
作業療法士	5
言語聴覚士	2
ソーシャルワーカー	1
健康運動指導士	2（1）
サポート部（事務）	5（1）
運転手	8（8）
総計	48（13）

（）内非常勤職員数

（2）提供したサービス

ア）外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ）通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ70分で行った。

ウ）訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ）訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活が送れるように24時間

の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーションの普及を図る目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会（年2回）、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会（年10回）・準備委員経験者向け勉強会（年1回）・地区勉強会（年3回）・摂食栄養サポート勉強会（年2回）の計16回を実施し、市民向け講演会（年2回）、市民向け研修会（年2回）を実施したほか、センターパンフレット・地域リハビリ推進用リーフレット・センター刊行物の作成及び配布、ホームページ運営、生活期リハに関する調査研究報告（3回）を行った。

（資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績）

カ) リハビリ事業

増加する事業利用者の安全確保のため、予約システムを導入し、下記事業を実施した。

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

(1) 回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関に出向き、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

(2) 医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医との連携を図った。リハビリセンター刊行物を発行し、医師会郵送物に同封してもらい、会員にリハビリテーション及びリハビリセンターの周知を図った。

(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携

① 近隣医療機関に出向き、情報交換を行った。

② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク 地域リハ推進委員会」と連携し、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。

- ③「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。また、ＳＷ及び看護師が「顔の見える連携作り委員会」に参加し、「船橋市における在宅医療・介護連携の心得」説明会で説明するなど会の運営に協力した。
- ④船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと運営連絡調整会議に参加し、運営に協力を行った。
- ⑤船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会に参加し、会員である市内外のＳＷと情報交換を行った。
- ⑥「船橋市通所リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑦船橋市全病院長会議に参加し、連携を図った。

リハビリテーション総合相談件数

(重複あり)

	センター事業に関する相談			センター以外に関する相談※	訪問看護に関する相談
	クリニック事業に関する相談	リハビリ事業に関する相談	その他		
平成30年4月	33	2	0	6	0
平成30年5月	50	9	0	4	0
平成30年6月	38	2	0	3	0
平成30年7月	45	2	0	5	0
平成30年8月	48	3	0	4	0
平成30年9月	43	3	0	2	0
平成30年10月	34	1	0	5	0
平成30年11月	27	7	0	3	0
平成30年12月	20	0	0	4	0
平成31年1月	29	1	0	5	0
平成31年2月	33	5	0	1	0
平成31年3月	30	2	0	5	0
計	430	37	0	47	0

※センター以外に関する相談の内容

- ・身体機能低下の方への同行訪問について
- ・身体機能低下、認知機能低下の方へのリハビリについて
- ・急性期病院入院中の患者家族より、退院後のリハビリについて
- ・急性期病院入院中の患者家族より、予後およびリハビリによる改善の可能性について
- ・回復期リハ病棟入院中の患者家族より、リハビリの内容について
- ・認知機能低下の方への認知機能検査について
- ・他院で外来リハが終了となった方より、今後のリハビリについて
- ・他県在住の方より、千葉県へ転居後のリハビリ施設について
- ・他院で通所リハ利用中の方より、リハビリの頻度増について

Ⅱ 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける平成30年度の利用実績は以下の通りである。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数 (単位：人)

	実患者数	延べ患者数
計	106	3,793

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	256
------	-----

①外来リハビリテーション実績 (単位：人)

区分	新規（初診）	再診	計
平成30年4月	5	293	298
平成30年5月	6	307	313
平成30年6月	4	322	326
平成30年7月	3	316	319
平成30年8月	5	314	319
平成30年9月	5	301	306
平成30年10月	4	330	334
平成30年11月	4	346	350
平成30年12月	3	325	328
平成31年1月	3	308	311
平成31年2月	3	279	282
平成31年3月	4	303	307
合計	49	3,744	3,793
1日平均患者	0.2	14.6	14.8

②一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察） (単位：人)

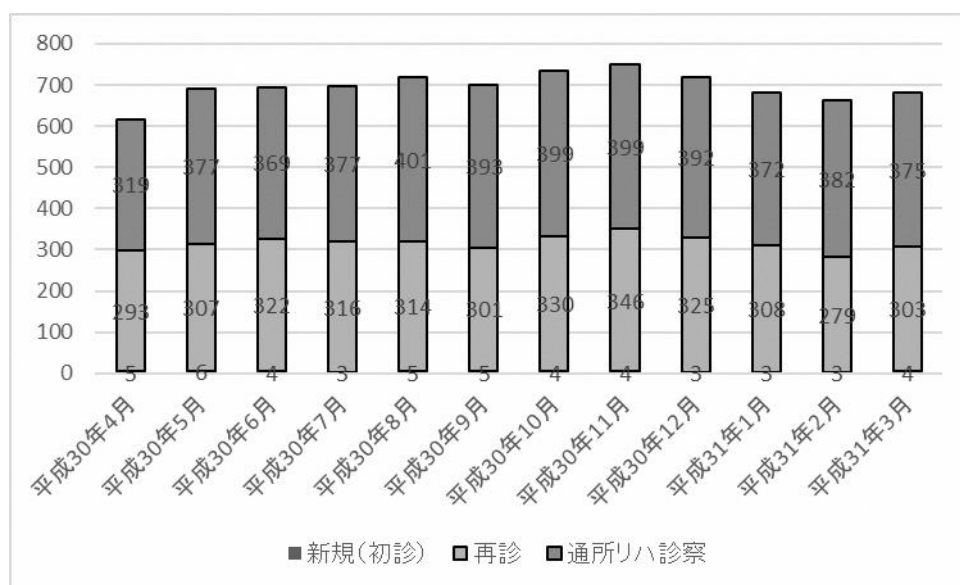
区分	通所リハ診察
平成30年4月	319
平成30年5月	377
平成30年6月	369
平成30年7月	377
平成30年8月	401
平成30年9月	393
平成30年10月	399
平成30年11月	399
平成30年12月	392
平成31年1月	372

平成31年2月	382
平成31年3月	375
合計	4,555
1日平均患者	17.8

③外来診療実績（①＋②）

（単位：人）

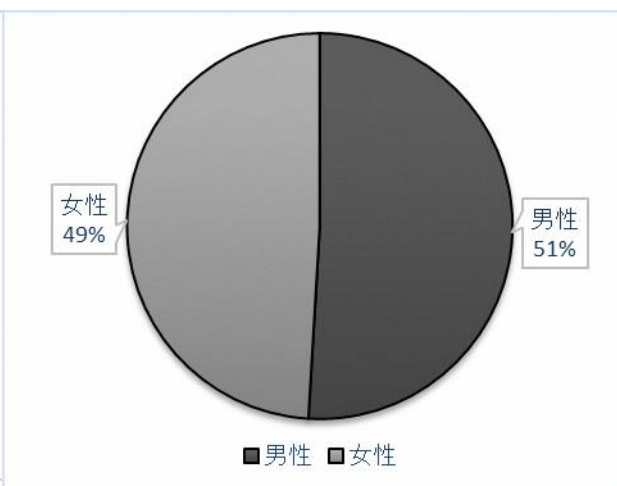
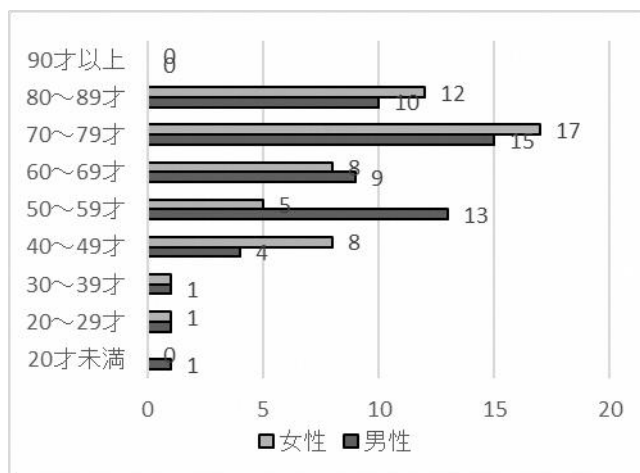
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診療	計
平成30年4月	5	293	319	617
平成30年5月	6	307	377	690
平成30年6月	4	322	369	695
平成30年7月	3	316	377	696
平成30年8月	5	314	401	720
平成30年9月	5	301	393	699
平成30年10月	4	330	399	733
平成30年11月	4	346	399	749
平成30年12月	3	325	392	720
平成31年1月	3	308	372	683
平成31年2月	3	279	382	664
平成31年3月	4	303	375	682
合計	49	3,744	4,555	8,348
1日平均患者	0.2	14.6	17.8	32.6



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

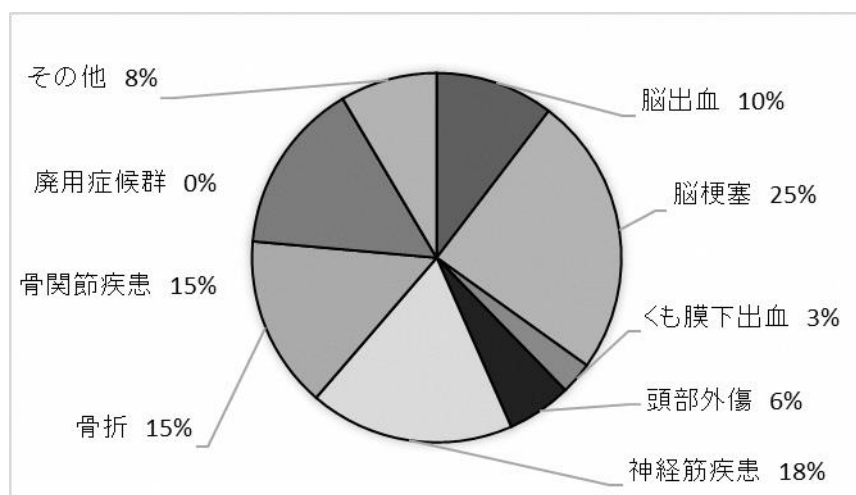
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	1	0	1	0.94%
20～29才	1	1	2	1.89%
30～39才	1	1	2	1.89%
40～49才	4	8	12	11.32%
50～59才	13	5	18	16.98%
60～69才	9	8	17	16.04%
70～79才	15	17	32	30.19%
80～89才	10	12	22	20.75%
90才以上	0	0	0	0.00%
合計	54	52	106	100%
平均年齢	65.4	67.6	66.5	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	11	10.4%
脳梗塞	26	24.5%
くも膜下出血	3	2.8%
頭部外傷	6	5.7%
神経筋疾患	19	17.9%
骨折	16	15.1%
骨関節疾患	16	15.1%
廃用症候群	0	0.0%
その他	9	8.5%
合計	106	100.0%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	18	16.99%
船橋市前原西	14	13.21%
船橋市習志野台	8	7.55%
船橋市二宮	7	6.61%
船橋市芝山	6	5.66%
船橋市駿河台	4	3.78%
船橋市薬円台	4	3.78%
船橋市前原東	3	2.83%
船橋市金杉	2	1.89%
船橋市三山	2	1.89%
船橋市松が丘	2	1.89%
船橋市滝台	2	1.89%
船橋市中野木	2	1.89%
船橋市田喜野井	2	1.89%
船橋市旭町	1	0.94%
船橋市夏見	1	0.94%
船橋市海神	1	0.94%
船橋市高根台	1	0.94%
船橋市高野台	1	0.94%
船橋市咲が丘	1	0.94%
船橋市三咲	1	0.94%
船橋市上山町	1	0.94%
船橋市新高根	1	0.94%
船橋市坪井東	1	0.94%
船橋市南本町	1	0.94%
船橋市二和東	1	0.94%
船橋市八木が谷	1	0.94%
船橋市本町	1	0.94%
船橋市湊町	1	0.94%
その他県内	15	14.15%
合計	106	100.0%

2 通所リハビリテーション利用者数

(1) 通所リハビリテーション利用者数 (単位：人)

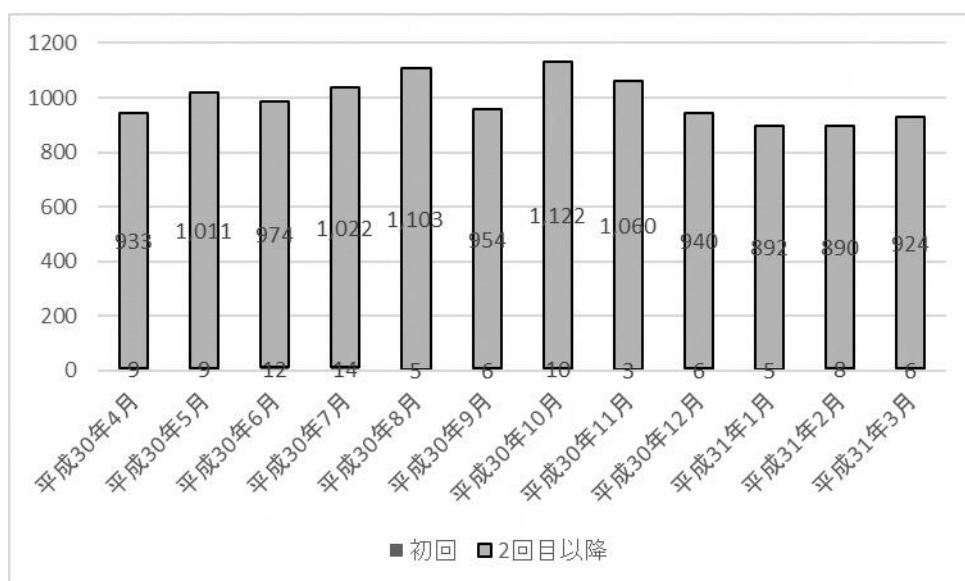
	実利用者数	延べ利用者数
計	252	11,918

(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	256
------	-----

(単位：人)

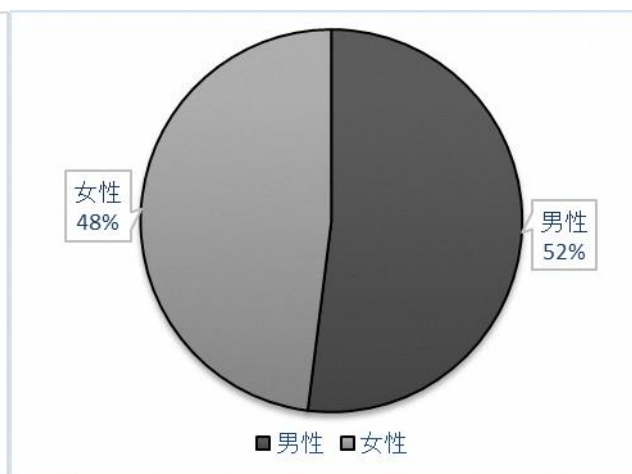
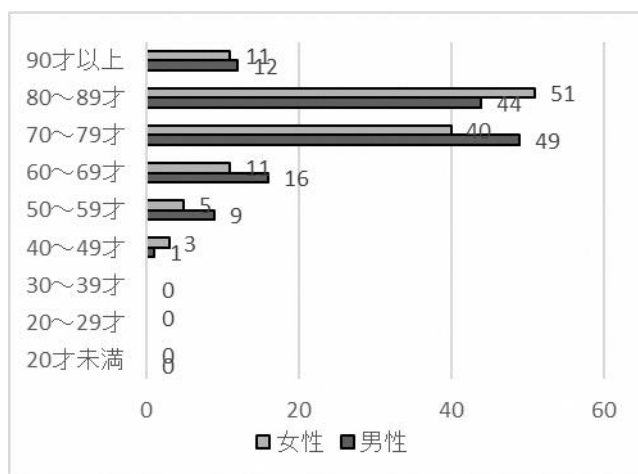
区分	初回	2回目以降	計
平成30年4月	9	933	942
平成30年5月	9	1,011	1,020
平成30年6月	12	974	986
平成30年7月	14	1,022	1,036
平成30年8月	5	1,103	1,108
平成30年9月	6	954	960
平成30年10月	10	1,122	1,132
平成30年11月	3	1,060	1,063
平成30年12月	6	940	946
平成31年1月	5	892	897
平成31年2月	8	890	898
平成31年3月	6	924	930
合計	93	11,825	11,918
1日平均患者	0.4	46.2	46.6



(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳

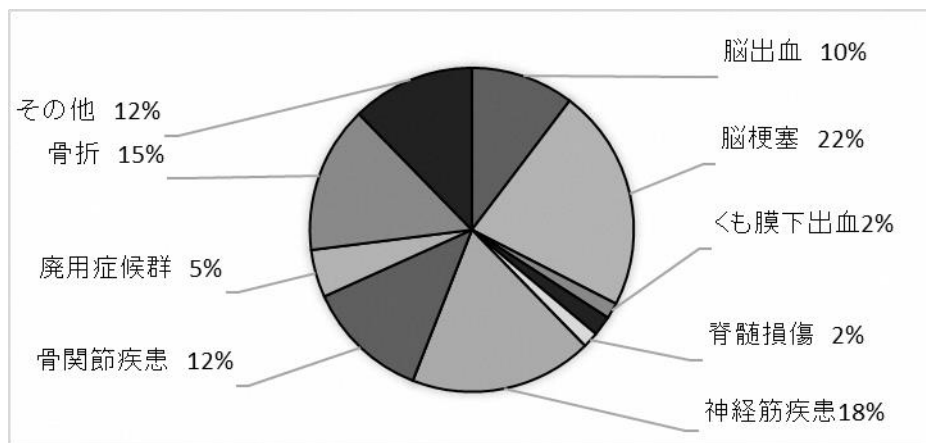
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	1	3	4	1.6%
50～59才	9	5	14	5.6%
60～69才	16	11	27	10.7%
70～79才	49	40	89	35.3%
80～89才	44	51	95	37.7%
90才以上	12	11	23	9.1%
合計	131	121	252	100.0%
平均年齢	76.4	78.4	77.4	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

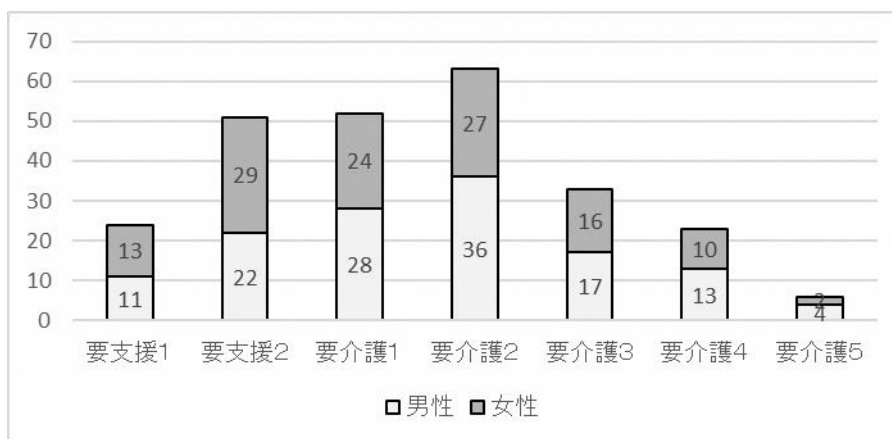
疾患名	患者数	構成割合
脳出血	26	10.3%
脳梗塞	56	22.2%
くも膜下出血	4	1.6%
頭部外傷	5	2.0%
脊髄損傷	4	1.6%
神経筋疾患	46	18.2%
脳腫瘍	0	0.0%
骨関節疾患	31	12.3%
廃用症候群	12	4.8%
骨折	37	14.7%
その他	31	12.3%
合計	252	100.0%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	11	13	24	9.5%
要支援 2	22	29	51	20.3%
要介護 1	28	24	52	20.6%
要介護 2	36	27	63	25.0%
要介護 3	17	16	33	13.1%
要介護 4	13	10	23	9.1%
要介護 5	4	2	6	2.4%
合計	131	121	252	100.0%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市前原西	59	23.41%
船橋市飯山満町	52	20.63%
船橋市芝山	20	7.94%
船橋市前原東	20	7.94%
船橋市薬円台	14	5.56%
船橋市二宮	13	5.16%
船橋市高根台	9	3.57%
船橋市中野木	8	3.17%
船橋市田喜野井	8	3.17%
船橋市三山	6	2.38%
船橋市駿河台	6	2.38%
船橋市習志野	4	1.59%
船橋市習志野台	3	1.19%
船橋市坪井東	3	1.19%
船橋市海神町	2	0.79%
船橋市西習志野	2	0.79%
船橋市印内	1	0.40%
船橋市夏見	1	0.40%
船橋市海神	1	0.40%
船橋市丸山	1	0.40%
船橋市金杉	1	0.40%
船橋市山手	1	0.40%
船橋市七林町	1	0.40%
船橋市若松	1	0.40%
船橋市松が丘	1	0.40%
船橋市新高根	1	0.40%
船橋市前貝塚町	1	0.40%
船橋市大穴南	1	0.40%
船橋市滝台町	1	0.40%
船橋市藤原	1	0.40%
船橋市二和東	1	0.40%
船橋市浜町	1	0.40%
船橋市本町	1	0.40%
船橋市湊町	1	0.40%
その他県内	5	1.98%
合計	252	100.0%

3 訪問リハビリテーション利用者

(1) 訪問リハビリテーション利用者数

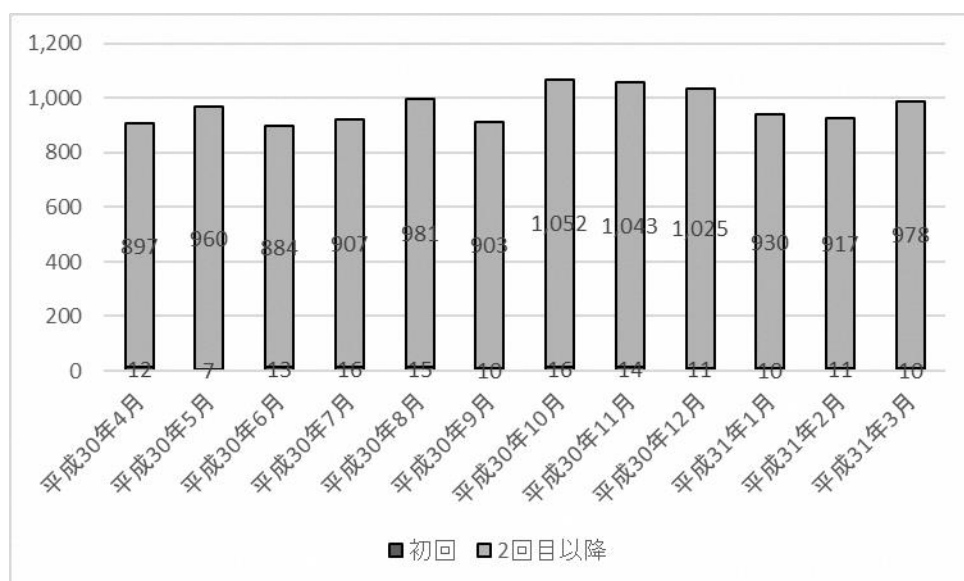
(単位：人)

	実利用者数	延べ利用者数
計	230	11,622

(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	256
------	-----

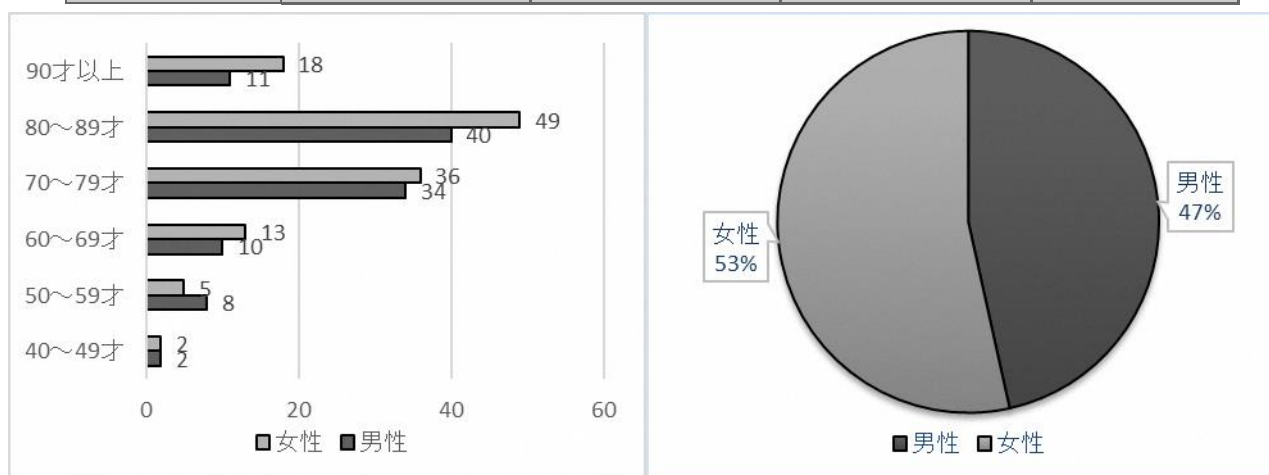
区分	初回	2回目以降	計
平成30年4月	12	897	909
平成30年5月	7	960	967
平成30年6月	13	884	897
平成30年7月	16	907	923
平成30年8月	15	981	996
平成30年9月	10	903	913
平成30年10月	16	1,052	1,068
平成30年11月	14	1,043	1,057
平成30年12月	11	1,025	1,036
平成31年1月	10	930	940
平成31年2月	11	917	928
平成31年3月	10	978	988
合計	145	11,477	11,622
1日平均患者	0.6	44.8	45.4



(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳

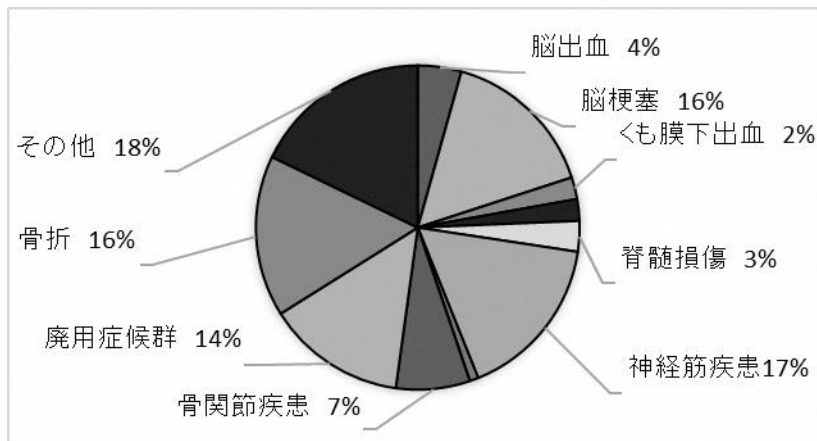
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	1	0	1	0.4%
30～39才	1	0	1	0.4%
40～49才	2	2	4	1.8%
50～59才	8	5	13	5.7%
60～69才	10	13	23	10.0%
70～79才	34	36	70	30.4%
80～89才	40	49	89	38.7%
90才以上	11	18	29	12.6%
合計	107	123	230	100.0%
平均年齢	76.6	79.2	78.0	



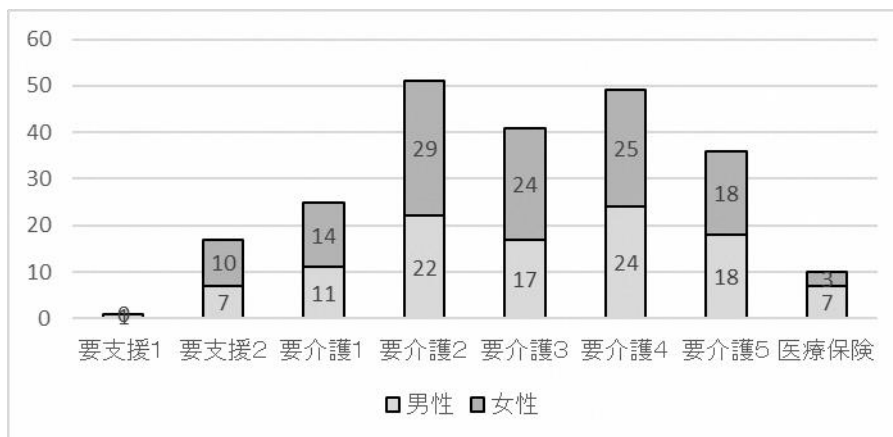
(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合
脳出血	10	4.3%
脳梗塞	36	15.7%
くも膜下出血	5	2.2%
頭部外傷	5	2.2%
脊髄損傷	7	3.0%
神経筋疾患	38	16.5%
脳腫瘍	2	0.9%
骨関節疾患	17	7.4%
廃用症候群	32	13.9%
骨折	37	16.1%
その他	41	17.8%
合計	230	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	1	0	1	0.4%
要支援 2	7	10	17	7.4%
要介護 1	11	14	25	10.9%
要介護 2	22	29	51	22.2%
要介護 3	17	24	41	17.8%
要介護 4	24	25	49	21.3%
要介護 5	18	18	36	15.7%
医療保険	7	3	10	4.3%
合計	107	123	230	100.0%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市習志野台	31	13.48%
船橋市三山	20	8.70%
船橋市前原西	18	7.83%
船橋市田喜野井	18	7.83%
船橋市芝山	16	6.96%
船橋市飯山満町	16	6.96%
船橋市前原東	15	6.52%
船橋市薬円台	15	6.52%
船橋市松が丘	12	5.22%
船橋市高根台	8	3.48%
船橋市西習志野	8	3.48%
船橋市習志野	6	2.61%
船橋市新高根	6	2.61%
船橋市二宮	5	2.17%
船橋市中野木	4	1.74%
船橋市東船橋	3	1.30%
船橋市緑台	3	1.30%
船橋市七林町	2	0.87%
船橋市若松	2	0.87%
船橋市駿河台	2	0.87%
船橋市坪井東	2	0.87%
船橋市夏見	1	0.43%
船橋市宮本	1	0.43%
船橋市大穴北	1	0.43%
船橋市滝台	1	0.43%
その他県内	14	6.09%
合計	230	100.0%

4 訪問看護利用者

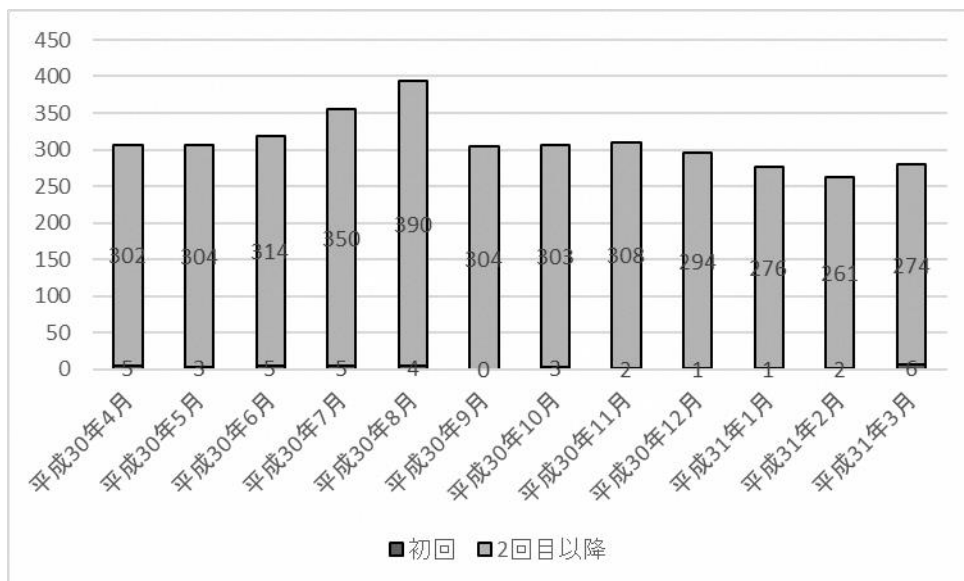
(1) 訪問看護利用者数

	実利用者数	延べ利用者数
計	103	3,717

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

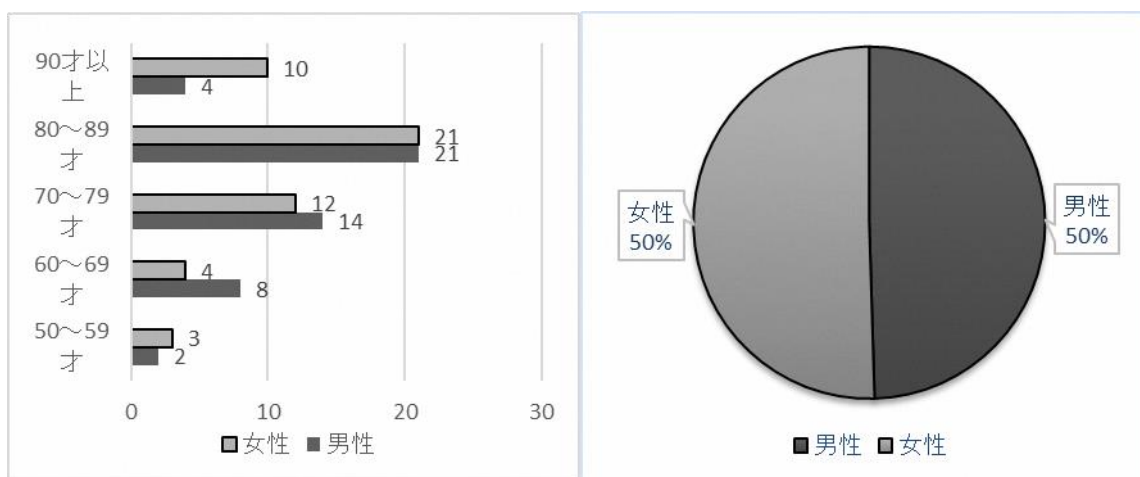
診療日数	256
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
平成30年4月	5	302	307
平成30年5月	3	304	307
平成30年6月	5	314	319
平成30年7月	5	350	355
平成30年8月	4	390	394
平成30年9月	0	304	304
平成30年10月	3	303	306
平成30年11月	2	308	310
平成30年12月	1	294	295
平成31年1月	1	276	277
平成31年2月	2	261	263
平成31年3月	6	274	280
合計	37	3,680	3,717
1日平均患者	0.1	14.4	14.5



(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

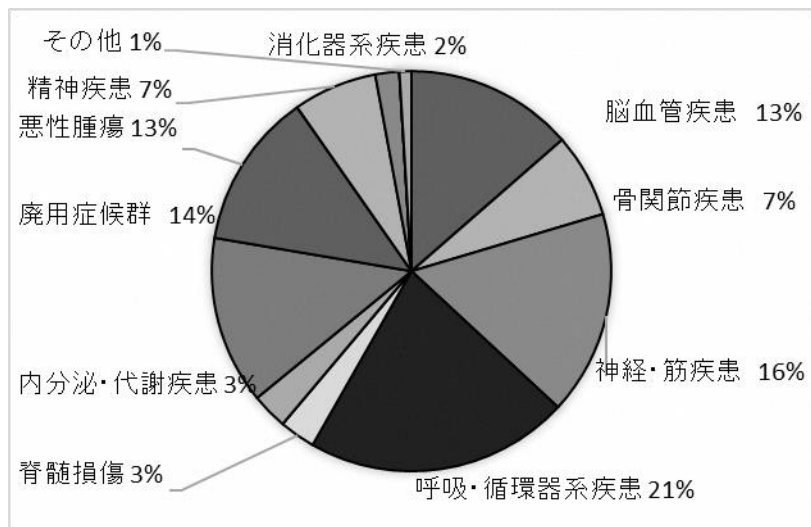
年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	1	1	1.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	2	1	3	2.9%
50～59才	2	3	5	4.9%
60～69才	8	4	12	11.6%
70～79才	14	12	26	25.2%
80～89才	21	21	42	40.8%
90才以上	4	10	14	13.6%
合計	51	52	103	100.0%
平均年齢	77.1	79.3	78.2	



(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

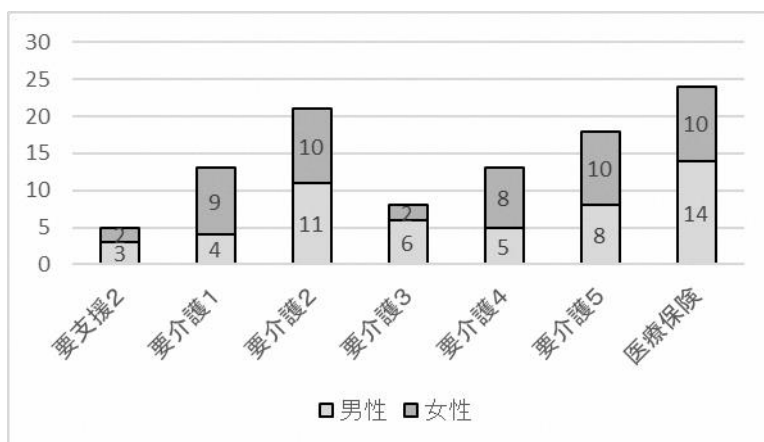
疾患名	患者数	構成割合%
脳血管疾患	14	13.6%
骨関節疾患	7	6.8%
神経・筋疾患	17	16.5%
呼吸・循環器系疾患	22	21.4%
脊髄損傷	3	2.9%
内分泌・代謝疾患	3	2.9%
廃用症候群	14	13.6%
悪性腫瘍	13	12.6%
精神疾患	7	6.8%
消化器系疾患	2	1.9%
内科系疾患	0	0.0%
泌尿器系疾患	0	0.0%

その他	1	1.0%
合計	103	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	0	1	1	1.0%
要支援 2	3	2	5	4.8%
要介護 1	4	9	13	12.6%
要介護 2	11	10	21	20.4%
要介護 3	6	2	8	7.8%
要介護 4	5	8	13	12.6%
要介護 5	8	10	18	17.5%
医療保険	14	10	24	23.3%
合計	51	52	103	100.0%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	15	14.57%
船橋市前原西	11	10.68%
船橋市夏見	9	8.74%
船橋市習志野台	8	7.77%
船橋市薬田台	7	6.80%
船橋市芝山	6	5.83%
船橋市緑台	5	4.86%
船橋市二宮	4	3.89%
船橋市金杉	3	2.91%
船橋市高根台	3	2.91%
船橋市中野木	3	2.91%
船橋市夏見台	2	1.94%
船橋市金杉台	2	1.94%
船橋市高根町	2	1.94%
船橋市三山	2	1.94%
船橋市新高根	2	1.94%
船橋市前原東	2	1.94%
船橋市滝台	2	1.94%
船橋市坪井東	2	1.94%
船橋市田喜野井	2	1.94%
船橋市金堀町	1	0.97%
船橋市三咲	1	0.97%
船橋市若松	1	0.97%
船橋市駿河台	1	0.97%
船橋市西習志野	1	0.97%
船橋市大穴南	1	0.97%
船橋市東船橋	1	0.97%
船橋市東町	1	0.97%
船橋市南三咲	1	0.97%
船橋市浜町	1	0.97%
その他県内	1	0.97%
合計	103	100.0%

5 地域リハビリテーション拠点事業

平成30年度の地域リハビリテーション拠点事業実績は別添資料の通り実施した。開催した内容としては、リハビリ関係者向け講演会 計2回、リハビリ関係者向け研修会 計16回、市民向け講演会 計2回、市民向け研修会 計2回を実施し、開催回数は合計22回実施し参加者の総数は1,548名であった。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

① パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	1,122

② 月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	88
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成30年4月	105	15
平成30年5月	119	14
平成30年6月	68	14
平成30年7月	123	15
平成30年8月	105	14
平成30年9月	64	14
平成30年10月	110	15
平成30年11月	107	14
平成30年12月	40	14
平成31年1月	111	15
平成31年2月	100	14
平成31年3月	70	14
合計	1,122	—
1日平均患者	13	—

(2) パワーリハビリフォローアップ

① パワーリハビリフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	11,032

② 月別パワーリハビリフォロー（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

（単位：人）

区分	利用者数	登録者数
平成30年4月	878	201
平成30年5月	928	198
平成30年6月	909	197
平成30年7月	924	210
平成30年8月	1,040	208
平成30年9月	824	206
平成30年10月	1,038	218
平成30年11月	941	216
平成30年12月	842	216
平成31年1月	860	226
平成31年2月	891	225
平成31年3月	957	222
合計	11,032	—
1日平均患者	45	—

(3) プールリハビリ

① プールリハビリ 利用者数

	延べ利用者数
計	4,847

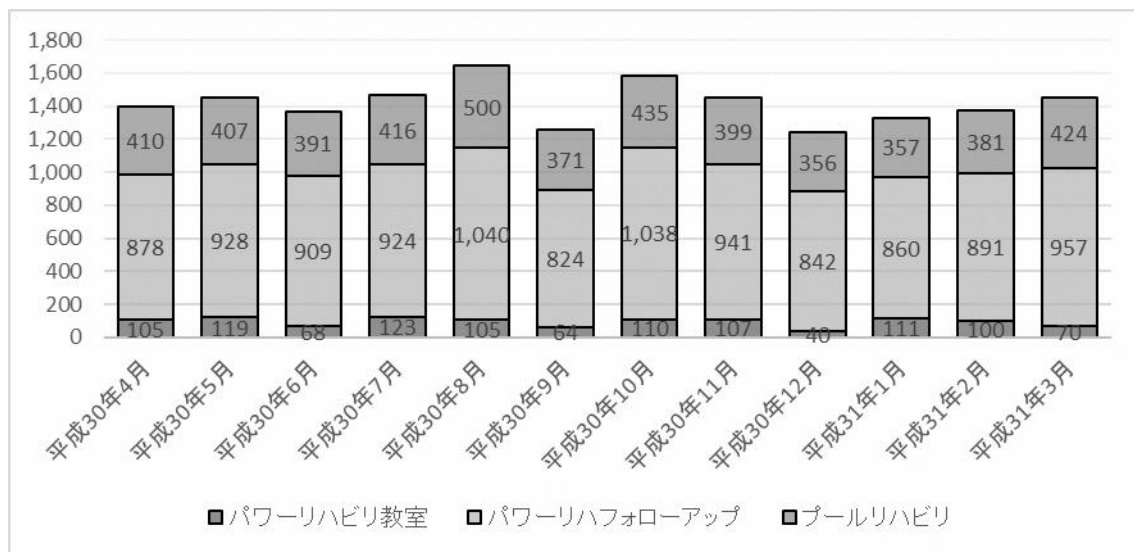
② 月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	241
-----	-----

（単位：人）

区分	利用者数	登録者数
平成30年4月	410	123
平成30年5月	407	126
平成30年6月	391	130
平成30年7月	416	130
平成30年8月	500	131

平成30年9月	371	130
平成30年10月	435	129
平成30年11月	399	130
平成30年12月	356	130
平成31年1月	357	128
平成31年2月	381	127
平成31年3月	424	125
合計	4,847	—
1日平均患者	20	—



Ⅲ 収支状況

平成30年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。

単位：千円

		診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ拠点事業	施設管理	合計
医業収益	利用料	0	0	4,250	0	0	4,250
	指定管理委託料	0	0	31,501	13,108	21,390	65,999
	医療・外来収益	33,323	16,856	0	0	0	50,179
	介護・外来収益	148,489	15,769	0	0	0	164,258
	受託検査・施設利用収益	0	0	0	0	0	0
	訪問看護収益	0	0	0	0	0	0
	その他医業収益	303	437	11	0	0	752
	計	182,115	33,063	35,762	13,108	21,390	285,438
	保険等査定減	-8	0	0	0	0	-8
	計	182,107	33,063	35,762	13,108	21,390	285,430
医業費用		198,967	38,798	24,258	12,558	21,390	295,971
医業利益		-16,860	-5,735	11,504	550	0	-10,541
本部配賦額		0	0	0	0	0	0
事業利益		-16,860	-5,735	11,504	550	0	-10,541
医業外収益	受取利息配当金	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
	患者外給食収益	0	0	0	0	0	0
	補助金・負担金	0	0	0	0	0	0
	その他の医業外収益	249	45	0	0	0	294
計		249	45	0	0	0	294
医業外費用	支払利息	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却損	0	0	0	0	0	0
	患者外給食材料費	0	0	0	0	0	0
	診療費減免	0	0	0	0	0	0
	貸倒損失	0	0	0	0	0	0
	貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0	0
	資産に係る控除対象外消費税	0	0	0	0	0	0
	繰延消費税等償却	0	0	0	0	0	0
その他医業外費用		0	0	3	0	0	3
計		0	0	3	0	0	3
経常利益		-16,611	-5,690	11,501	550	0	-10,250
特別利益	固定資産売却益	0	0	0	0	0	0
	施設設備補助金等収入	0	0	0	0	0	0
	その他の特別利益	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
	固定資産廃棄売却損	0	0	0	0	0	0
特別損失	施設設備補助金等積立金繰入	0	0	0	0	0	0
	有価証券評価損	0	0	0	0	0	0
	その他の特別損失	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益		-16,611	-5,690	11,501	550	0	-10,250
法人税・住民税及び事業税負担額		0	0	0	0	0	0
税金等調整額		0	0	0	0	0	0
当期純利益		-16,611	-5,690	11,501	550	0	-10,250

医業費用内訳

			診療所	訪問看護	リハビリ 事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	合計
	給与費	給料	135,228	23,428	15,397	7,245	0	181,298
		賞与	15,662	4,010	1,187	935	0	21,794
		賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0
		退職給付費用	2,200	630	170	169	0	3,168
		法定福利費	20,346	4,304	1,385	1,220	0	27,254
		計	173,435	32,372	18,139	9,568	0	233,514
	材料費	医薬品費	140	0	0	0	0	140
		診療材料費	494	0	259	0	0	753
		医療消耗器具備品費	74	0	16	0	0	90
		給食用材料費	0	0	0	0	0	0
		計	708	0	275	0	0	983
	委託費	検査委託費	0	0	0	0	0	0
		給食委託費	0	0	0	0	0	0
		寝具委託費	0	0	0	0	0	0
		医事委託費	0	0	0	0	0	0
		清掃委託費	0	0	0	0	7,160	7,160
		保守委託費	309	0	0	0	101	410
		その他委託費	1,372	155	220	259	12,442	14,448
		計	1,681	155	220	259	19,703	22,018
	設備関係費	減価償却費	1,320	1,586	385	0	0	3,291
		機器賃借料	0	0	0	0	0	0
		地代家賃	6,172	335	0	0	0	6,507
		修繕費	101	0	190	0	0	290
		固定資産税等	5	0	4	0	0	10
		機器保守費	1,959	324	292	0	0	2,574
		機器設備保険料	0	0	0	0	0	0
		車両関係費	3,759	733	0	2	0	4,494
		計	13,316	2,978	870	2	0	17,166
	研究費	研究費	0	0	0	0	0	0
		研修費	700	16	40	791	0	1,547
		計	700	16	40	791	0	1,547
	経費	福利厚生費	348	46	77	3	0	474
		募集採用費	0	1,697	20	0	0	1,717
		旅費交通費	70	3	3	0	0	77
		職員被服費	2,519	319	221	63	0	3,122
		通信費	966	443	470	189	0	2,067
		広告宣伝費	0	0	0	226	0	226
		消耗品費	1,645	488	917	345	257	3,652
		消耗器具備品費	179	0	87	0	0	266
		図書費	214	24	0	0	0	237
		会議費	0	0	0	0	0	0
		水道光熱費	1,878	212	0	0	0	2,091
		賃借料	118	0	39	0	0	156
		保険料	194	6	84	0	0	283
		交際費	0	0	0	0	0	0
		諸会費	314	17	0	0	0	331
		租税公課	2	21	2,793	884	1,430	5,130
		貸倒損失	0	0	0	0	0	0
		貸倒引当金繰入	0	3	0	0	0	3
		支払手数料	384	0	4	228	0	616
		寄付金	0	0	0	0	0	0
		雑費	297	0	0	0	0	297
		計	9,127	3,277	4,714	1,938	1,687	20,743
			0	0	0	0	0	0
	合 計		198,967	38,798	24,258	12,558	21,390	295,971

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

目 標 1 利用者アンケートによる患者満足度

1. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも 80%以上、「満足」のみの割合がいずれも 60%以上であること。

2. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。

- サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では平成30年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返った。

また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、受付のレイアウト変更をし来院する患者・利用者の様子を確認し易いよう工夫をし、患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成30年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者への満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上となり目標を達成した。また「満足」のみの割合については、リハビリテーションの質・技術において目標である60%に対し、78.9%目標を達成した。個別リハビリの内容について、十分な説明と同意のもと取り組んだ結果、目標を達成することができた。

リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能の変化が94.7%、日常生活動作が94.7%で目標（85%以上）を達成した。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成31年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成30年度目標：

平成30年4月から平成31年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成30年度実績：

① 平成30年4月から平成31年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：82名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：26名

※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 21名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・リハビリやプールを続ける ・妻と二人暮らしを継続する	週2回プールに参加できている。プールの他趣味活動もあり多忙。自主トレーニングも定着しており、徐々に筋力が増加してきている。
・膝の痛みを軽減し、筋力をつけスムーズに歩けるようになりたい ・食事作り、買い物、掃除などできる限り家事をきちんとやりたい	痛みがある中でも、ご主人と協力しながら家事全般を行えている。集団リハビリへの参加を継続することで疼痛増悪なく日常生活を送ることができている。
・外に出て気分転換をし、アドバイスを受けて運動したい	腹部・股関節周辺の筋力向上に伴い動作が安定していきいている。自主トレーニングも定着してきている。
・スムーズに階段昇降ができるようになりたい ・はやく歩けるようになりたい	柔軟性の改善が見られ歩行能力の向上が認められる。
下肢筋力をつけ、大好きなゴルフを再開する	自宅でも集団リハの体操を継続して実施。倦怠感なく歩ける距離は延長しており、立位休憩することで更に歩けるようになった。
痛みが改善し、外出できるようになりたい	継続して散歩をすることができており、歩行に対する不安感は減っている

		る。
	安心して屋外歩行ができるようになりたい	安全に外出が継続できており、身体機能も維持できている。
	・公共交通機関を利用して安全に外出できるようになりたい ・娘と一緒に旅行に行きたい	掲げていた目標を達成することができた。運動習慣も自己管理可能となったため、終了。
・通所介護への移行 5名		
③ ①に占める②の割合：31.7%		
目標達成に対する活動状況について ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。 ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者の日常生活動作（ADL）と外出や買い物等の手段的生活動作（IADL）が向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。 ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。 ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。 ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。		
平成30度の実績に基づく今後の改善点について 通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は31.7%となり、目標（5%以上）を達成した。質の高いリハビリテーションを提供し利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。 平成31年度も同様に取り組んでいく。		

目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合100分の50以上

平成30年度目標：

介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合を100分の50以上とする。

平成30度実績：

介護福祉士の占める割合：100%

(全体の介護職員数3人　うち介護福祉士3人)

目標達成に対する活動状況について

- ①中重度の要介護者や認知症高齢者に対応できるケア体制を確保した。
- ②法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、無駄のない配置に努めた。

平成30度の実績に基づく今後の改善点について

介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、介護福祉士の占める割合は100%の実績であり、非常に質の高い介護サービスが提供できたと言える。

平成31年度も引き続き、在宅生活を支援するため介護サービスの充実を図る。

目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成30年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

平成30度実績：

勤続年数3年以上の者の占める割合：95.5%

(全体の職員数22人　うち勤続年数3年以上の職員数21人)

経験年数	人数
3年未満	1人
3～5年	7人
5～10年	13人
10年以上	1人

目標達成に対する活動状況について

①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

平成30度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は95.5%の実績となり、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

平成31年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標5 利用者アンケートによる患者満足度

平成30年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただきましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただきましたか。
 - ③通所リハビリのスケジュールについてご満足いただきましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成30年度実績：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①個別リハビリテーションについて

「満足」と「やや満足」を足した割合	：	91.4 %
「満足」のみの割合	：	69.7 %
 - ②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合	：	94.3 %
「満足」のみの割合	：	78.3 %
 - ③通所リハビリのスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合	：	81.2 %
「満足」のみの割合	：	60.9 %
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	：	93.0 %
-------------------------	---	--------
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	：	93.0 %
-------------------------	---	--------

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では平成30年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返りにより実施した。また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個

個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成30年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者への満足度調査（平成30年度目標①～③）においては、「満足」と「やや満足」を足した割合が80%以上となり目標を達成した。

また「満足」のみの割合においても目標（60%以上）を達成した。

リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能は93.0%、日常生活動作は93.0%で目標（85%以上）を達成した。効果的で質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成31年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成30年度目標：

平成30年4月から平成31年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成30年度実績：

① 平成30年4月から平成31年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：111名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：35名

※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ、訪問リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 27名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・屋外歩行中心のリハビリをしたい ・老人会の旅行に参加したい	長距離歩行ができ、旅行にも参加できるようになったため終了。
住み慣れた自宅で長く暮らしたい	公共機関を利用したり、外出や買い物を継続できている。
もう1回歩けるようになって自由に外出したい	筋力・バランスともに向上しています。外出も定着しており、一人で出かけることができています。
少しでも痛みが楽になってほしい	ヘルニアの痛みは消失。近隣の地域活動や趣味活動に参加できており、身体機能の維持・向上に努められている。
・入院せずに在宅で生活したい ・外に一人で外出できるようになりたい	屋外歩行は疼痛が伴うが、自宅周辺（連続1km程度）は可能となった。
一人で少しの時間でも安全に過ごせるようになり、妻が安心して外出できる時間を作ってあげたい	散歩は奥様と継続できており、外出の帰りに歩くことができています。
・T字杖を使って歩けるようになりたい。 ・近所のスーパーまで行けるように	一日おきに近所のスーパーに買い物に行くことができるようになっている。洗濯、掃除も施設の物品を使用

	なりたい	し、自立して実施可能。
	・フライパン返しがしたい ・手放して外を歩けるようになりたい ・市民センターでの運動教室に通えるようになりたい	車、自転車の運転は共に安全に実施できており、市民センターでの活動も再開した。自主トレーニングも積極的に行えており、腰痛は消失。不整地を含めて杖なしでも安全に歩行可能。
	・通所リハビリへ移行 6名 ・通所介護への移行 2名	
③ ①に占める②の割合：31.5%		
目標達成に対する活動状況について ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。 ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。 ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。 ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。 ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。		
平成30年度の実績に基づく今後の改善点について 訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は31.5%と、目標（5%以上）を達成した。質の高いリハビリテーションを提供し、利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。 平成31年度も平成30年度と同様に取り組んでいく。		

目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成30年度目標：

利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。

平成30年度実績：

理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合：**94.4%**

全体の職員数	理学療法士	11人	(うち勤続年数3年以上の者)	10人
	作業療法士	5人	(うち勤続年数3年以上の者)	5人
	言語聴覚士	2人	(うち勤続年数3年以上の者)	2人

目標達成に対する活動状況について

①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

平成30年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は94.4%の実績であり、一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。

平成31年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

平成30年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただきましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただきましたか。
 - ③訪問のスケジュールについてご満足いただきましたか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が75%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成30年度実績：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について

「満足」と「やや満足」を足した割合	： 79.7 %
「満足」のみの割合	： 55.1 %
 - ②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合	： 85.6 %
「満足」のみの割合	： 69.6 %
 - ③訪問リハビリのスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合	： 82.6 %
「満足」のみの割合	： 63.8 %
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	： 92.8 %
-------------------------	----------
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	： 95.7 %
-------------------------	----------

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上

法人の教育研修局が基軸となり、訪問リハビリに従事する全職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基

づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成30年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者への満足度調査①から③において、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上と非常に高い割合を示し、目標を達成した。また「満足」のみの割合については、リハビリテーションの質・技術のみ55.1%（目標60%以上）となり、目標達成には至らなかった。要因としては、30年度末に担当の交代・代行等を行った結果と考えられる。リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能は92.8%、日常生活動作は95.7%で目標（75%以上）を達成した。効果的で質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成31年度もさらなる満足度の維持・向上を目指し取り組んでいく。

Ⅳ 訪問看護利用者について

目標9 利用者アンケートによる患者満足度

平成30年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成30年度実績：

①訪問看護について

「満足」と「やや満足」を足した割合：91.2%

「満足」のみ割合：85.3%

②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合：94.1%

「満足」のみ割合：88.2%

③訪問のスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：97.0%

「満足」のみ割合：88.2%

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

平成30年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護利用者への満足度調査①から③において、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合についても60%以上となり、非常に高い割合をもって目標を達成することができた。

また、訪問看護職員の採用に苦慮する中、訪問スケジュール調整においても、利用者の便宜を図った結果、高い満足度を得ることができた。

平成31年度も引き続き平成30年度と同様の活動を行い、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標10 利用者アンケートによる満足度

平成30年度目標：

リハビリ事業利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成30年度実績：

① 職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合：98.4%

「満足」のみの割合：83.1%

② パワーリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：95.8%

「満足」のみの割合：62.5%

③ プールリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：94.0%

「満足」のみの割合：53.7%

目標達成に対する活動状況について

① 職員の対応に関する事項の満足度の向上

② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

職員の対応については目標5「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。

また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、上記目標5と同様な対応を取り満足度の向上を図った。

③ 待ち時間に対する満足度の向上

利用者が増加したことにより、定員を超えて事業を実施する日が生じたことから、施設管理上の安全面に支障をきたす状況が予想されたため、船橋市と協議し、利用者に対し平成28年1月から1人週1回を上限とした利用回数の制限したが、平成28年度よりリハビリ事業管理者を設置。平成28年6月よりパワーリハビリフォロー利用枠を2枠増加することで利用者への制限を緩和した。さらに、平成29年度からは予約システムを導入。これにより、利用定員を定め、安全に各種マシンを利用することが実現した。平成30年度においても、同予約システムの運用を継続し、平等な利用環境を提供することができた。

④ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成30年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリ事業の満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合のいずれも80%以上となり目標を達成した。パワーリハビリ・プールリハビ

リにおける満足のための割合においては、パワーリハビリが62.5%、プールリハビリが53.7%であった。プールリハビリにおける満足のための割合が目標達成に至らなかった。目標未達の要因としては、「プールの予約の際、定員数により希望の曜日に予約ができない場合がある」「シャワー設備を増やして欲しい」などの利用者からの意見等があげられる。満足のための割合は前年比減少となったが、「満足」と「やや満足」の割合がいずれも前年比増加していることから、利用率の高い状況下においても利用者の安全性の確保や、利用し易い施設運営を図れたことが満足度が増加した要因であると考えられる。

平成31年度においても、平成30年度同様に患者満足度の維持・向上を図る。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標11 診療所部門 経常収支比率

平成30年度目標： 診療所経常収支比率 100%以上
平成30年度実績： 診療所経常収支比率 91.5% ※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。
目標達成に対する活動状況について ①増患対策 ・外来リハビリ件数（紹介件数）の増加対策として、船橋市リハビリセンタークリニック外来案内を急性期病院へ定期的な訪問を実施した。 ・外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関へ紹介を行った。また、同一医療法人である船橋市立リハビリテーション病院を退院し外来リハビリへ移行する対象者のフローを見直し、センターの空き枠情報を共有することでリハビリテーションのシームレスな連携を図った。 ・通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。 ・実際に行うリハビリの単位実績を把握する他、利用の増加を予測した予測推計を更新することで、リハビリテーションサービスの供給量の適正に努めた。 ・センター機関誌を有効活用し、地域・医師会・居宅介護支援事業所・在宅へセンターの情報発信を実施した。 ・ケアマネジャーむけ交流会を実施 「もっと知りたい療法士（PT・OT・ST）とリハビリテーションサービスのこと」を実施した。 ②費用の削減 ・患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。
平成30年度の実績に基づく今後の改善点について 通所リハビリに関しては、訓練スペースの問題から定数を維持する運営とし、訪問リハビリの新規依頼を中心に利用者拡大の施策を図る。 医業収益は182,106千円、医業費用は198,967千円。医業利益は-16,861千円。経常利益としては-16,612千円。平成30年度診療所経常収支比率においては91.5%の実績となる。 平成31年度においては、平成30年度に取組んだ増患対策を継承し、介護保険サービスにおけるリハビリテーションマネジメントの充実に向け、リハビスタスタッフの1名増員による増患を図る。ケアマネジャーむけ交流会の実施については、平成30年度1回の開催を4回の開催とし周知を図る。また、診療所の土曜日

運営に関しては、現行の訪問リハビリ（介護保険）の運営を維持し、経常収支比率100%以上を計画する。

※外来患者述べ件数

平成31年3月実績 682件（前年同月対比 -2件）

※通所リハビリ延べ件数

平成31年3月実績 930件（前年同月対比 -56件）

※訪問リハビリ延べ件数

平成31年3月実績 988件（前年同月対比 +43件）

目標12 財務内容の改善に関する事項

平成30年度目標： 訪問看護経常収支比率 100%以上

平成30年度実績： 訪問看護経常収支比率 85.2%

※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。
- ・ケアマネジャーむけ交流会を実施
「フィジカルアセスメント・利用者の健康状態について観察のポイントについて」を実施した。

②費用の削減

- ・計画的に人員配置を行うため、患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。

平成31年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護実績に関しては、着実に増加傾向を示した。

医業収益は33,063千円、医業費用は38,798千円。医業利益は-5,735千円。経常利益としては-5,690千円。平成30年度診療所経常収支比率においては85.2%の実績となる。

平成30年度においては、さらに利用者の増加を図ることを計画し、経常収支比率100%以上を目標とする。

※訪問看護延べ件数

平成31年3月実績 280件（前年同月対比 -47件）

3. その他管理に関する重要事項

目標13 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う

平成30年度目標：

地域リハビリテーション拠点事業に定めた事業内容を最低限行うこと。

平成30年度実績： 目標に対し全て達成した

目標達成に対する活動状況について

- | | |
|---|-------|
| ①リハビリセンターパンフレット作成 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 16回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 3回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

平成30年度の実績に基づく今後の改善点について

【資料9】地域リハビリテーション拠点事業アンケートに示すとおり、研修会の内容について5段階でアンケートを実施したところ、全アンケートの平均として「①とても良い」63%、「②良い」33%という結果となり、全体の「とても良い」と「良い」の割合が96%と高い満足度を得られた。

平成31年度も、以下の項目を継続して実施するとともに、高い満足度を得られるよう努力する。

- | | |
|---|-------|
| ①リハビリセンターパンフレットの更新 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 15回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 2回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |